

《埼玉協同病院だより》

ふれあい

2014年 No.321

発行：埼玉協同病院

〒333-0831 川口市木曾呂1317

Tel.048-296-4771

Fax.048-296-7182

ホームページ：http://www.kyoudou-hp.com

7

食養科のとりくみ 『食』を通して『身も心も養う』

病院食は、治療の一環として、管理栄養士が栄養バランスを考え、調理師が素材を活かした調理の工夫を行っています。退院後も、病院食を参考に、役立てていただくことで、治療効果が高まると考えています。当院では調理師も、ベッドサイドにお伺いして、患者様に治療食の説明や、嗜好等をお聞きしていますが、食欲がない方には、少しでも食べて気持ちも元気になるように、ご希望を取り入れています。病棟とも連携をとり、調理師は“お膳の向こうに患者様の顔が見える食事作り”、管理栄養士は“ひとりひとりのニーズに合わせた、食べていただける食事の支援”を追求しています。また、NST（栄養サポートチーム）と連携し、栄養状態の積極的な改善に取り組んでいます。

病棟における食のサービスは、各病棟のニーズに合わせて実施しています。緩和ケア病棟は、月1回、病院調理師が、3時にティータイムサービスを行っています。デザートや飲み物をご家族と一緒に召し上がっていただき、カフェのような雰囲気を楽しんでいただいています。産婦人科病棟では、月1回、お楽しみワゴンサービスを行っており、7月はフライの盛り

合わせとティラミスをお出ししました。「タルタルソースがあっさりしていておいしい。まさか、病院でケーキが食べられるなんて思いませんでした」と声が寄せられました。こうした患者様の声が私たちの仕事の励みとなり、さらに満足していただくための食事の追求へとつながっています。



緩和ケア病棟
ティーサービスの様子



調理師によるワゴンサービス

院内にあるレストラン虹の森は、病院の管理栄養士、調理師がバランスの良いメニュー、野菜が摂れるメニューなどをご自宅でも、取り入れることができるように、健康食を提案しています。また、薄味でも素材のうまさを引き出した減塩弁当の注文も承っています。

是非ご利用下さい。



健康づくりの店 レストラン虹の森職員一同



NST（栄養サポートチーム）による回診

川口市がん検診がスタートしました

7月1日より川口市がん検診がスタートしました。

埼玉県内のがん検診の受診率をみると川口市はまだまだ多くの方々が受診していないことがわかります。大腸がん、子宮がん、乳がんについては無料クーポン券が発券される年齢の方もいます。おおいに活用しましょう。

平成24年度	胃がん	肺がん	大腸がん	子宮がん	乳がん
埼玉県平均	6.1	17.5	20.4	21.0	18.6
全国平均	9.0	17.3	18.7	23.5	17.4
川口市	1.6	7.1	12.8	21.0	14.3
さいたま市	10.1	34.3	31.5	24.1	22.2

サマー増資のお願い

当院では、毎年7月・8月を「サマー増資月間」として、生協コーナーや各診療科、病棟や地域において、増資のお声がけと増資封筒の配布を行っております。

組合員の皆様からお預かりした出資金は、新たな医療機器の購入や施設の拡充など日々の診療の充実のために役立てさせていただきます。昨年度は新たに分娩監視装置を導入することができました。また、当院では「いつでも誰でも安心してかかる病院」を目指し、入院

診療の際、差額ベッド料（室料）をいただいておりますが、それも皆様からの出資金があればこそ実現可能となります。

当院では今後も組合員の皆様のお役に立てるよう、より幅広く、より高度な医療機能の拡充に努めていきますので、出資金へのご協力を心よりお願い申し上げます。

（地域活動委員会 國府田創）



産婦人科病棟助産師
小峰 将子



分娩監視装置

医師の紹介 外科専門医 栗原唯生医師 専門研修を終えて



皆さんから頼られる病院をめざして

静岡がんセンター肝胆外科での2年間の外部研修を終え、本年度より当院外科に帰任しました栗原唯生です。私は2005年に東北大学を卒業後、当院で初期研修を始め、医者として今年で10年目になります。

肝胆膵領域のがん疾患では、治療の第一選択

は手術であり、また胃がんや大腸がんといった当院でも症例数の多いがんでは肝転移を伴うことも多く、肝胆膵領域の手術レベルの維持・向上は、この地域の医療の中心を担うべき当院には必須のことと考えています。

静岡がんセンターは日本国内では有数の施設で、肝胆膵外科では毎日肝切除や膵頭十二指腸切除などの大きな手術を行っています。研修の

間は毎日ほとんどの時間を病院で過ごすような生活を送っていましたが、その分非常に勉強になり、自分自身でも成長できたと感じています。

研修で得たものをここで発展させ、患者様の治療に還元していくことが自分の勤めと考えています。皆さんから頼っていただける病院、外科になるよう努力して参りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

シリーズ 医療の質の改善 ⑬ がん検診の精度を高めて早期治療につなげる

当院では、医療の質を定量的に測るための指標を300以上設定しています。測定値をもとに課題を明らかにして改善策を立て、実行したことが改善にむすびついているかどうかを確かめながら、継続的な改善を図るためです。今回は2013年のがん検診の精度向上と早期治療につなげる取り組みについてご紹介します。

がんは高齢者人口の増加に伴って増え、2012年は約36万人、国民3人に1人ががんで死亡しています。がん細胞は、絶えず体内で発生しており、がん細胞の増殖条件が整ったときがんとなりますが、ふつうは遺伝子の異常ががんになるまでには数十年かかるといわれています。がんは早い段階で見つかれば根治も可能ですが、放置すれば治療が困難になります。一方で過剰診断になるリスクもあり、がん検診は科学的根拠にもとづいた精度管理が進められるよう

になりました。部位別の死亡数トップ3の胃、大腸、肺の年代別がん発見率(図1)は、胃、大腸、肺とも70代が最も高くなっています。全年代を合わせた発見率は全国対がん協会の集計(2010)と比べると少し低めですが、発見率の推移は図2のとおりで、胃がんが大腸がんについては4分の3が早期がんでの発見でした。

検診精度を表にまとめました。「要精査率」は、精査が必要と判定された割合ですが、高い方が良いわけではなく胃11%、大腸7%、肺3%以下であることが目標とされています。胃はこれまで、がん以外の病変についても要精査と判定してきたため31%と高くなっていました。効果的な検診とするために、判定区分とフォロー方法の見直しを行い、がんを疑う場合はすみやかに精密検査のご案内ができるよう変更

表 要精査率・精査率(当院と全国の比較)

要精査率	がん検診			
	胃がん	大腸がん	肺がん	
当院	30.7%	5.1%	1.6%	
全国(2007)	10.0%	7.3%	2.8%	
精査率	当院	27.6%	28.3%	34.6%
	全国(2007)	75.2%	55.0%	70.6%
陽性反応的中率	当院	0.56%	2.70%	1.69%
	全国(2007)	1.53%	2.35%	4.80%

しました。「精査率」は精査が必要と判定されたうち精査を受けた人の割合です。全国の半分という状況ですが、この間取り組みを強めて改善を図ってきました。大腸がん検診では便潜血の陽性判定者の血液データを検討し、早めの受診を勧めたい方には結果表ができる前にも電話で診察予約を入れ、不在の場合でも受診の必要性を伝える工夫もしてきました。また過去に陽性反応が出た方で未受診だった方へも受診のお勧めを強めてきました。その結果、陽性反応的中率(要精査と判断された人のうちがんが見つかった人の割合)は全国2.35%に対して当院2.7%という結果が得られています。しかし、大腸がんは全国的にも精査率が低い現状であることと、検診から診断までの期間が平均で92日、3か月近くかかっていることなど、早く受診していただけるようまだまだ工夫や改善が必要です。

図1 年代別発見率・対がん協会2010年比較

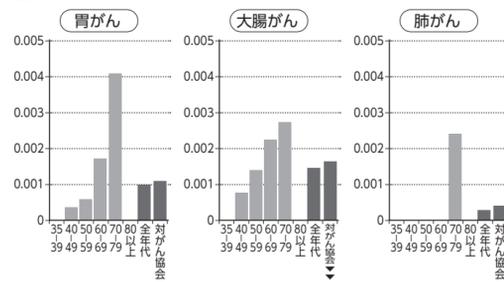
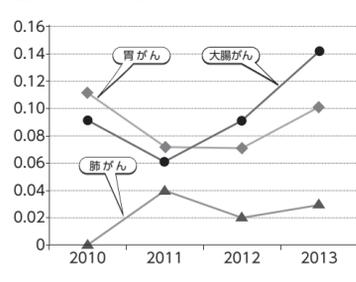


図2 発見率推移



埼玉協同病院の関連施設のご紹介 7 かすかべ生協診療所



多くの組合員の願いを集めてかすかべ生協診療所は1997年11月に誕生しました。診療所の正面にはシンボルツリー「はなみずき」の木が、患者様・組合員さんなど訪れる皆さんをお迎えし、見守っています。7月と12月には待合室でコンサート。秋には診療所での健康まつりと大勢の組合員さんが集う診療所です。診療所の事業活動では春日部市特定健診を1700名の方に、事業所健診も3800名の方に受けていただき

ました(2013年度)。慢性疾患で定期通院されている方は1600名・通所リハビリテーションも毎月500名のご利用をいただいています。また、在宅療養支援診療所として、ケアセンターひだまりと連携し「住み慣れた家で療養したい」という要望にもお応えしています。健康づくりと病気の早期発見につながる健康診断、一人ひとりを大切に慢性疾患医療、機能が維持できる介護の提供で信頼されまた利用したくなる、また相談しなくなるような地域で頼りになる診療所をめざします。よろしくお願ひします。

所長：菊池 敬



住所	〒344-0065 春日部市台原2-4-12 ☎048-752-6143
診療受付時間	月 火 水 木 金 土 日
午前 8:30~13:00	○ ○ ○ ○ ○ ○ —
午後 14:30~17:00	往診 ○ ○ ○ ○ ○ ○ —

※水・木は夜間診療18:00~20:00があります。
※月曜日の午後は訪問診療を行っています。
【診療科】内科
【休診日】月・土の午後、第2土曜日・日・祝祭日・年末年始

夏休み企画 いのちの授業公開講座 助産師から子どもたちへのメッセージ

もうすぐ夏休みが始まります。

今年の夏休みは当院で「いのちの授業」に参加してみませんか？

いのちの授業を始めて8年目になります。私たち助産師が、日々の業務の中で感じる「いのち」のメッセージを子どもたちに伝え、いのちの大切さを子どもたちに感じてもらえれば…と活動しています。

小学校・学童をはじめとして、中学校・高校からも講演依頼を受けています。

今回はより多くの人に私たちの活動を知っていただきたく、夏休み企画として、付属施設のふれあい会館でいのちの授業を開催いたします。

皆さまぜひお越しください。

開催日時 8月2日(土)
対象者 小学生(希望があれば就学前も可。基本的には保護者同伴をお願いします。お子さまのみの参加であれば送迎をお願いします)
時間 受付 13:30~ 開始 14:00



産婦人科病棟職員

終了 15:00

場所 埼玉協同病院 ふれあい会館第1会議室

料金 1人100円(講義料)
申し込み方法 電話、E-mail、産婦人科・小児科外来にて受け付けております。

電話 ☎048-296-4771(代)
担当：産婦人科外来

受付時間 月~金 14:00~17:00
E-mailアドレス：inochi@mcp-saitama.or.jp
参加者のお名前、ご年齢、保護者同伴可・不可、連絡先を明記して上記アドレスに送信をお願いします。

虹の森レストランでは、ごはんの量の調整にお応えしています

健康診断で、血圧が高めと言われ落ち込んでいます。運動不足と食べ過ぎに思い当たる節があります。

私は、虹の森レストランをよく利用させていただいています。プレートランチのライスを少なくしてほしいという要望をカウンターで調理員の方にお願いしたことがあります。ほかの方でも、同様にカウンターで声をかけている姿を見かけました。いっそう、「半プレートランチ」というのはいかがでしょうか。野菜はそのまま、ライスやメインの料理を半分にするなどの要望をもっている方はいないでしょうか。

いつもご利用いただきありがとうございます。このたびの「半プレートランチがあればよいのでは」とのご意見をいただき、ありがとうございます。当店では、埼玉県健康づくり協力店に加盟しております。健康づくりのお手伝いとして、カロリー表示、塩分表示、バランス定食(適切なカロリー、塩分、野菜の量の定食)の提供など、さまざまな工夫をさせていただいております。その一環として、全てのメニューのご飯の量の調整に対応が可能です(ご飯の計量にもお応えいたします)。今後は、投書のご意見にもありましたおかずの量についても調整できるよう検討を続けていきたいと存じます。

今後ともよろしくお願いいたします。 回答者：食養科

協子ちゃんの健康マメ知識 第151回

● 乳腺超音波検査 ●

超音波検査は音の特性を生かした検査です。周波数の低いものは深くまで届きやすく、周波数の高いものはより細かな画像を作成することが出来ます。

この特性を利用して超音波検査では目的の部位ごとにプローベ(検査をするときに患者様にあてているもの)を選択します。

乳腺超音波検査では腹部超音波検査に比べ浅いところを観察します。よって腹部超音波検査に用いるものより周波数の高いプローベを使用します。

HPH国際カンファレンス

ポスターセッションにて発表した山田歩美医師から



バルセロナで行われた第22回国際HPHカンファレンスに参加してきました。数年前から当病院内でもHPHが話題になり、病院として取り組み始めていましたが、私自身は、その内容を十分理解して実践していたわけではありませんでした。

しかし、今回バルセロナでのカンファレンスで、HPHについて世界各国の医療者がこんなにも熱く議論しているのを目の前で実感して、とても驚いたと同時に、埼玉でも広げていかなければという気持ちにさせられました。

また、日本各地から協同組織の方々の発表があったことが、他国とは違う日本の大きな特徴でした。ヨーロッパや台湾などは、国や自治体単位でHPHに力を入れて、ある程度のお金もかけてHPHを実践しているのが特徴的でした。

日本では、病院職員にとどまらず、地域の人々が生き生きとHPHに参加しています。しかもお金もあまりかけずに。すでに日本で実践していることは、世界各国よりもすごいことなのではないかと感じました。いま私たちが実践していることをうまくアピールすることができれば、HPHの活動はもっと広がっていくのではないかと思います。

乳房の検査ではX線を用いたマンモグラフィーと合わせて行われることが多いです。

これはマンモグラフィーが微細な石灰化を見つけることを得意としているためです。それに対して超音波検査は病巣の浸潤を評価するのに優れています。最近ではエラストという機能で病巣の硬さの評価をすることもあります。



